

研究の概要

1 研究主題

学び合い，考えを深める子どもの育成
～自ら学びをつなぐ授業づくり～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進展しており、子どもが義務教育を終えた時点での未来についてすら、予測することが困難な時代である。今はまだ存在しない職業に就き、まだ発明されていない技術を活用し、想像し得ないような社会の課題に向き合っていく準備をするための場として、学校が果たすべき役割は大きいと考える。

今年度から完全実施となる学習指導要領では、こうした社会的動向を受けて、育成を目指す資質・能力を次のように示している。

ア	何を理解しているか，何ができるか	生きて働く「知識・技能」の習得
イ	理解していること・できることをどう使うか	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
ウ	どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか	学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力，人間性等」の涵養

必要な知識や情報を容易に検索することができる現代において、暗記したことを再現する力は重要とは言えない。様々な情報や出来事を正しく受け止め、主体的に判断しながら、社会の中で自分ができることやどのような未来を創っていきたいのかを考え、他者と協働して課題を解決していく力が求められている。

こうした教育の今日的課題を踏まえた上で、本校の研究主題を「学び合い，考えを深める子どもの育成～自ら学びをつなぐ授業づくり～」とする。受け身の姿勢で知識・技能を吸収していくのではなく、主体的に学び、既有的知識・技能と、新たに習得した知識・技能とを結び付け、自分なりに再構成していく学びの過程を経ることができるように、自ら学びをつなぐための授業づくりを工夫していきたい。また、本研究主題は、今年度から完全実施となる学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点にも直結するものであると考える。指導要領の趣旨を十分に踏まえながら、授業力の向上に努めていきたい。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は「心豊かに夢に向かって生きようとする子どもの育成」であり、その実現のために目指す子どもの姿を「和気意知」として子どもたちや保護者に示している。「和気意知」とは、「**和**合協力（思いやりや奉仕の心もち，共に助け合う子ども）」「**気**力体力（健康で生き生きと活動する子ども）」「**意**志強固（粘り強く最後までやり抜く子ども）」「**知**識探究（進んで学び，深く考える子ども）」の頭文字をとったものである。

研究においては「知識探究」に励む子どもたちの姿をより具体的にイメージし、その実現に向けた方策を、実践を通して追究していきたい。「何を，どのように学ぶべきか」を自ら判断し主体的に取り組んでいく力や、「何に着目し，どのように考えるのか」という学びの視点や方法を自ら見いだす力を育てていくことができるように、指導方法の工夫，改善に努める必要があると考える。

(3) これまでの研究から

一昨年度からの二年間、本校では「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）の授業づくりを通して、「学び合い、考えを深める子どもの育成」を目指してきた。子どもたちから多様な考えを引き出し、自己の変容の自覚を促したりするために、種々の手立てが講じられ、目指す子どもの姿の具現化に向けて一定の成果が得られたと言える。道徳科については、多面的・多角的に考えるための発問の工夫や、一人一人の考えを可視化し共有するための手立て、長期的な変容の見取りなどにおいて充実した取組が図られていた。

一方で、他教科等においても、それぞれの教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせた授業づくりが進められていたかといえば、現時点では十分とは言えない。また、仲間と共に学び合う姿勢は確実に育まれてきているものの、協働的な学びの場が、本来の目的である自己の考えを深めることに十分につながっていない場面も見られた。学びをつなぐ上で、協働的な学びの場における考えの広がりは見られたものの、個の考えの深まりにはつながっていないのである。そのため、学び合いの成果を個の学びに生かすための支援の在り方について、さらに研修を深めていく必要がある。新学習指導要領の実施となる今年度は、上述のことについて、研究教科を特定せずに、各教科等の特質に応じつつ、教員各自の専門性や適性を考慮しながら提案授業や各種研修会等を実施し、目指す子どもの姿の具現化を図っていききたい。

(4) 子どもの実態から

素直で明るく、様々な活動に生き生きと取り組むことができる子どもたちである。授業においては落ち着いた態度で、友達や教師の話をよく聞きながら学ぶことができる子どもが多い。一方で、考えはあっても伝えることに抵抗感をもっていたり、誰かが話してくれるだろうと人任せにしまったりする様子が見られることがある。学び合いの場に身を置いてはいるものの、常に聞くことだけに終始している子どももいる。また、6年間クラス替えがないまま進級していくことにより人間関係の固定化が見られ、多様な考えを十分に吟味せず、「～さんが話しているから、この考え方がよい。」と安易に判断してしまうこともある。進んで話し合い、振り返り、これからは生かしていくことができるような、自分にとって価値のある学びへと深めていく過程に課題があると言える。

今後ますますグローバル化が進展し、多様化していくであろう社会の動きに対応しながら生きていくための 資質・能力を育むためには、自ら考え、発信し、協働的に最適解・納得解を追究する力を育てていくことが不可欠であると考え。一人一人が主体的に学び合いに参加することによって、自己の考えが深められような授業づくりを目指し、研修を積み重ねていきたい。

以上のことから、本研究主題を設定する。

3 目指す子どもの姿

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、主体的に考え、話し合う子ども(2) 学び合いの成果を振り返り、再考することを通して、自らの考えを広げ深めていく子ども |
|--|

4 研究の重点

- (1) 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びを実現するための単元構成や授業展開の工夫
- 「自分の考えをもち、話し合い、再考する」学びが保障される学習過程の設定（※1）
 - 単元において働かせる見方・考え方の明確化
 - 見方・考え方を働かせながら資質・能力を高めるための発問の工夫
 - 見方・考え方を働かせるよさを実感できる授業づくり
- (2) 一人一人に考えの広がりや深まりを自覚させるための手立ての工夫
- 再考を促すための支援の在り方（※2）
 - 学びをつなぐための振り返りの視点の明確化（※3）
 - 継続的な記録の蓄積による変容の適切な見取り（※4）
 - 変容の自覚へとつなげるための教師による価値付け

※1 学びをつなぐための基本プロセスについて、実践を通して検証する。

〔考えをもち〕…既存の知識・技能を生かして思考・判断する。

〔話し合う〕…互いの考えを表現し、協働的に学ぶ。

〔再考する〕…知識・技能の再構成を図り、自らの学びをつなぐ。

※2 単元や本時のどこに再考の場面を位置付けるか、どのような方法で行うか、子ども自身が必要感をもって考えるためにどのような手立てが考えられるかについて検証していく。

※3 振り返りの視点として、次のような例が考えられる。

振り返りの視点	教師の言葉かけの例	子どもの振り返りの例
学び方について	「どんな（誰の）考え方が いいと思いましたか。それ はなぜですか。」 「どうしてその考え方を選 んだのですか。」 「難しかったところはある ますか。考えるときのポ イントは何でしたか。」 「今日の学習で、どんなこ とが大切だと思いました か。」	「○○さんの考えを聞いてなるほどと思った。」 「～という考え方に納得した。」 「自分には、～の方法が使いやすかった。どうし てかという～。」 「まちがしやすいのは～。まちがえないようにす るためには～。」 「自分の考えだけでなく、～という考え方もでき ると知った。」 「自分の考えに、～という考え方も取り入れてみ たい。」 「～に注目することが大切だと思った。」
これまでの学び とのつながり	「生活の中で、似たような 経験をしたことがあります か。」 「これまでに学んできたこ とで、この学習に生かせる （役立った）ことはあり ますか。」	「～したときに、同じようなことがあった。」 「□□で使った考え方に似ていると思った。」 「□□の学習と～のところが同じだと思った。」 「今日の学習は、□□の学習とつながっていると思 う。」 「□□の学習でも、こんな見方（考え方）をして いた。」 「～という考え方は、いろいろな学習で使えると思 った。」
これからの学び とのつながり	「納得できていないところ はありますか。」 「もっと知りたいことはあ りますか。」	「なぜ～なのだろう。」 「どうすれば～できるのだろう。」 「～の場合はどうなるのだろう。」 「～について、もっとよく知りたい。」
(具体的な見通し)	「あなたの疑問は、どうす れば解決できると思いま すか。」 「次の時間（これから）の あなたのめあては何です か。」	「次は、○○さんの方法を試してみたい。」 「～についてもっとくわしく知るために、次は… を試してみたい。（…して調べてみたい。）」 「いろいろな考え方があることを知った。これか らは問題に合わせて、一番適切な方法を選んで いきたい。」 「～を、生活の中でも役立てていきたい。」

※4 単位時間、単元、あるいは年間を通じて、様々な方法で子どもの変容を継続的に見取る必要がある。その上で、子ども自身が自らの学びを見つめ直し、つながりや変容を自覚しながら学びを促進させていく過程も大切にしていきたい。

【例】単位時間…考え方（解き方）の変化、課題に対する個々の「まとめ」、評価問題、振り返りの記述内容などの見取りを生かした支援を通して

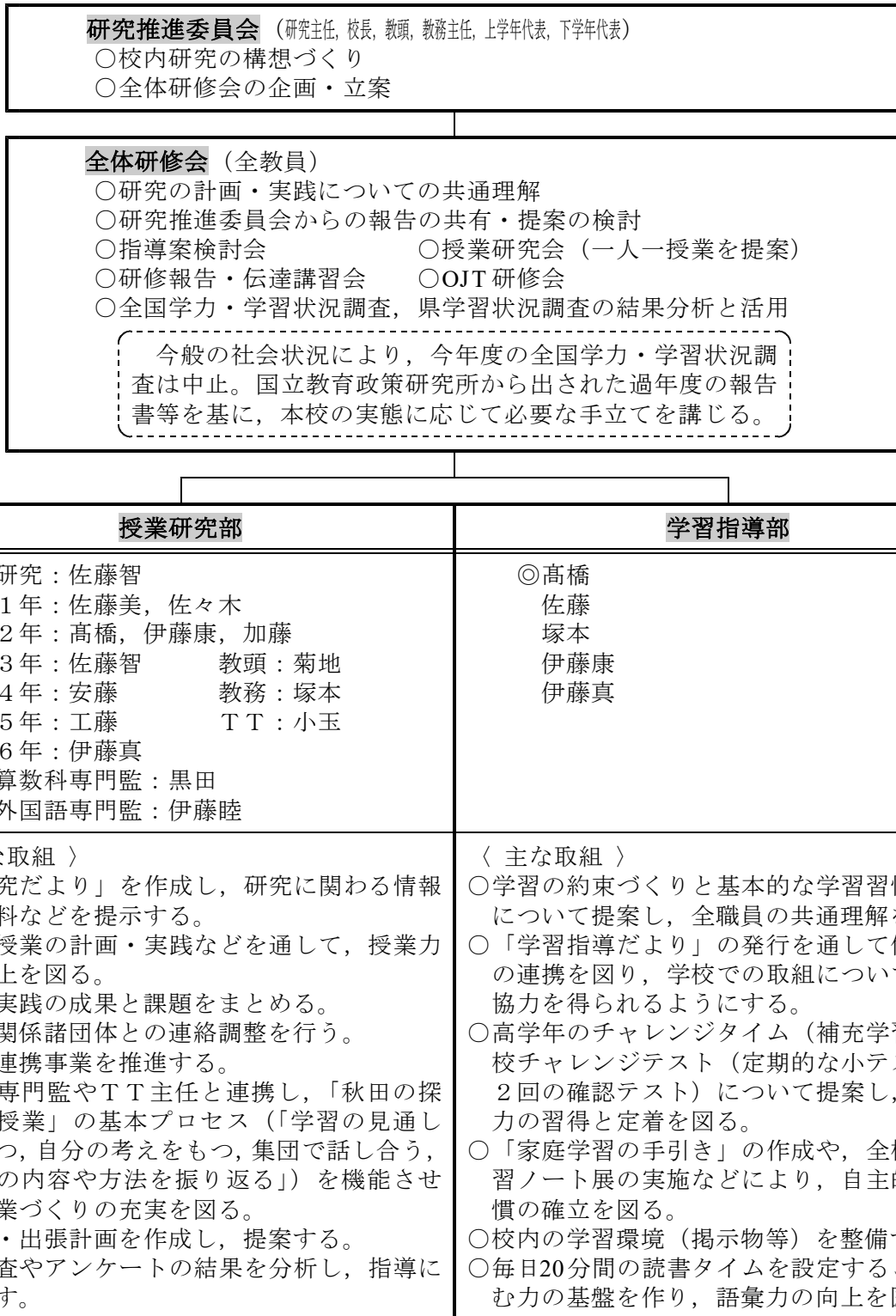
単元…単元導入時の初発の感想や、レディネステスト、アンケートなどに書かれた内容と、終末時に話したり書いたりした内容との比較を通して

年間…学習の過程や成果などの記録の蓄積（ポートフォリオ）の活用を通して

5 研究の実践

- (1) 学習指導要領における各教科等の目標に基づき、学級の実態や身に付けさせたい資質・能力を明確にした個人研修計画を作成し、年間の見通しをもった実践研究を進める。
- (2) 年間を通じた計画的な授業研究会を実施するとともに、随時、情報交換や授業参観の場を設け、その都度成果と課題を確認、共有していくことで授業改善を図る。
- (3) 日々の実践において有効であった方策を各自が記録・蓄積し、共有することにより、次年度に生かすことができるようにする。

6 研究の組織



新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今後、研究計画を変更せざるを得ないことが考えられる。その際は、授業研究会を実践発表会に替える、今年度の研究内容を次年度まで延長するなど、状況に応じて柔軟に対応していく。

7 年間計画

月		研究会・研修会等	主 な 内 容	研修事業・講座等への参加	
4	研究の計画立案	○研究推進委員会 ○全体研修会	○本年度の研究内容の方向付けと共通理解 ○今後の研修の進め方についての確認	学校体育担当者連絡協議会	佐藤美
5		○研究推進委員会 ○全体研修会	○学習指導案の形式の検討と共通理解 ○各指導部の活動内容の見直し	新任生徒指導主事研修講座①	工藤
6	研究の具体化と実践	○研究推進委員会 ○全体研修会 ●特別支援教育セミナー(1回目)	○過年度の報告に基づいた全国学力・学習状況調査の活用 ●授業提示(国語科) 2年 伊藤 康 ●授業提示(国語科) 1年 佐々木 誠	新任特別支援コーディネーター研修会① 図画工作科の授業改善 学校組織マネジメント研修講座①	佐々木 加藤 佐藤智
7		●授業研究会(要請訪問)	○学習指導案の検討 ●提案授業(理科) 4年 塚本 晋 ○成果と課題の確認	第1回授業力向上推進協議会 「性に関する指導」指導者研修会 小学校外国語教育集中実践セミナー 新任特別支援コーディネーター研修会②	伊藤真 高橋 伊藤真 佐々木
8		○全体研修会	○前期校外研修報告 ○新教育課程説明会伝達	新教育課程説明会(社会) 新教育課程説明会(特別支援)	工藤 伊藤康
9		●授業研究会(教科等訪問)	○学習指導案の検討 ●提案授業(国語科) 5年 工藤 良直 ●提案授業(体育科) 1年 佐藤 美保子 ○成果と課題の確認	第2回授業力向上推進協議会 新任生徒指導主事研修講座②	塚本 工藤
		○全体研修会	○前期研究の成果と課題の確認		
10	研究の見直しと実践	●授業研究会(校内研)	○学習指導案の検討 ●提案授業(体育科) 2年 高橋 理佳子 ○成果と課題の確認	キャリア教育実践研究協議会 県学校体育研究大会提案授業(2年体育科)	小玉 佐藤美
11		●特別支援教育セミナー(2回目)	●授業提示(自立活動) 2年 伊藤 康 ●授業提示(国語科) 2年 加藤 益美	新任特別支援コーディネーター研修会③ 学校組織マネジメント研修講座②③ 県学力向上フォーラム公開授業(6年外国語科)	佐々木 佐藤智 伊藤真
		●授業研究会(校内研)	○学習指導案の検討 ●提案授業(外国語科) 6年 伊藤 真弥 ●提案授業(社会科) 4年 安藤 睦子 ○成果と課題の確認		
12		●授業研究会(校内研)	○学習指導案の検討 ●提案授業(社会科) 3年 佐藤 智子 ○成果と課題の確認		
		○研究推進委員会 ○全体研修会	○研究紀要作成についての確認 ○秋田県学習状況調査の結果分析と活用		
1	研究のまとめ	○全体研修会	○今年度の研究の成果と課題の確認 ○後期校外研修報告	第3回授業力向上推進協議会	佐藤智
2		○研究推進委員会 ○全体研修会	○来年度の研究内容の検討と共通理解		
3					

情報交換の場や授業参観を、必要に応じて適宜設定する。